

令和8年度 小平市立小平第六中学校 学校評価計画表

学校教育目標

○ 敬愛 ○ 勤勉 ○ 創造

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】 ■(生徒)可能性を感じ主体的に活動して挑戦できる学校 ■(保護者)安心と信頼があり子供を通わせたい学校 ■(地域)地域や保護者、学校が協働し生徒の成長を支えていく地域とともに歩む学校
 【目指す児童・生徒像】 ■自他を尊重し思いやりのある生徒(敬愛) ■最善を尽くし自分の行動に責任をもつ生徒(勤勉) ■他者との対話や協働を通してより価値あるものを創り出していく生徒(創造)
 【目指す教員像】 ■生徒を慈しみ理解し、生徒の良さや能力を伸ばす教職員 ■日々研鑽に努め協働して磨き合う教職員 ■地域や保護者と共感し、対話しながら保護者や地域の信頼に応える教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題

【成果】 □ 落ち着いた学校生活が送れた(朝読書の徹底により、落ち着いた状態で一日のスタートが切れた)。 □ 話し合い活動の充実により、居場所づくりにつながった。 □ 不登校支援の充実。
 【課題】 ■ 自主性や主体性の育成 ■ 正しく楽しい学校生活の充実 ■ 粘り強く学びに向かう姿勢の育成

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標	成果指標
学力向上	<p>■生きる力(学習を考える力)の育成</p> <p>○学びに向かう姿勢を育み、家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>○対話的協働的な深い学びに向けての授業改善を図る。</p>	<p>・授業を大切に生徒への働きかけと、くり返しドリル学習の機会を設ける。</p> <p>・授業とつながっている宿題の配信やこだるくノート等の利用を通して、家庭学習の習慣化を促す。</p> <p>・(新)六中スタンダード(授業で大切にす6点)を教員が意識して授業づくりを進めるようにする。</p> <p>・(デジタルを活用した)これからの学びについて実践研究を推進する。</p>	<p>学習支援ソフトを用いて、宿題を配信し、実施率と正答率を確認する。3教科(国数英)の宿題配信にはノートを利用するなどしてデジタルとリアルの融合を目指し効果的な学習への取組とする。</p> <p>・(新)六中スタンダード授業状況自己チェック表で、自らの授業を振り返り、修正して新たな授業づくりを行う。</p> <p>・これからの学びを価値づける研修会を実施し取り入れる雰囲気醸成する。</p>	4 <学習支援ソフト利用状況(5教科のみ)>	4 <保護者・地域アンケート達成率>
				3 5教科配信者数/5教科教員数。(同一学年同一教科で他者に任せている教員は配信者数に反映しない。)3教科ノート利用率は今後の参考活用とする。	3 (よくできている+だいたいできている)(%)
				2	2 「家庭では、家庭学習が習慣化してきている」
				1 30%未満	1 30%未満
健全育成(いじめ防止)	<p>■生きる力(人を・自分を考える力)の育成</p> <p>○生徒の居場所づくり絆づくりを推進すると同時に、自発性や主体性を育む。</p> <p>○いじめ防止に向けて組織的な対応や不登校対応を推進する。</p>	<p>特別活動や生徒会活動を充実させる。話し合い活動の充実を図り、集団の中で認められる経験をさせる。達成感や成就感を感じる活動の工夫を行う。ボランティア活動を通して自発性や主体性を育む。</p> <p>居場所づくり絆づくりを推進し、いじめの未然防止に資する。組織的な対応によりいじめの早期発見、早期対応を行う。不登校対応特別委員会を設置し、各学年の不登校生徒への理解と支援を進める。</p>	<p>自他の意見を尊重し、折り合いをつけ合意形成を図る経験をさせる。学校行事等で、生徒自らが役割を果たし、集団の中で認められる経験をさせる。ボランティア活動の企画運営実践をさせる。</p> <p>SNSなどの適切な利用を目指し、メディア・リテラシー教育を推進する。出前授業、保護者の協力依頼等を行う。校内委員会で不登校生徒の個に応じた適切な不登校対応を提案し実行する。</p>	4 <校内アンケート> 「あてはまる+ややあてはまる」(%)	4 <保護者・地域アンケート達成率>
				3 「学校は、学級活動(話し合い活動)や行事、生徒会・委員会活動を通して、生徒の主体的に社会形成へ参画できる能力や態度を育成することができた。」	3 (よくできている+だいたいできている)(%)
				2	2 「学校は生徒同士協力して、よりよく生活しようとする働きかけを行っている。」
				1 30%未満	1 30%未満
学校経営	<p>■地域とともに歩む学校を目指す。</p> <p>○コミュニティ・スクール活動を推進する。</p> <p>○地域や保護者と連携協働し、生徒の成長を支える教育活動の充実を図る。</p>	<p>学校経営協議会を月1回実施し、地域の学校に期待することや、学校が持続可能な地域社会づくりに資するための課題を見出す。その課題解決に向けて具体的取組を提案できるようにする。</p> <p>CSプロジェクト(学力向上、健全育成、キャリア教育)を現生徒の実態に合わせ検討し、より充実したものにする。学校の教育活動を積極的に情報発信し、地域住民や保護者の理解を促進する。</p>	<p>地域と連携したCSの活動により、学校の教育課題の解消に迫る。六中地区小中で統一した取組で、中1ギャップの解消と家庭の教育力向上を図る。地域貢献活動が実践できるようにする。</p> <p>CS推進委員会等でプロジェクトの内容を検討し実施する。教育活動をHPや学校メールなどにより発信する。地域施設(小平福祉園や公民館など)との連携協働を推進する。</p>	4 <校内アンケート> 「あてはまる+ややあてはまる」(%)	4 <保護者・地域アンケート達成率>
				3 「CSとの連携を図り、放課後学習教室やボランティア活動等の実施を通して、地域と協働する取組を推進した。」	3 (よくできている+だいたいできている)(%)
				2	2 「学校はコミュニティ・スクールとして、生徒を育てていくために学校と保護者・地域と連携している。」
				1 30%未満	1 30%未満
キャリア教育	<p>■人を考える・自分を考える力の育成</p> <p>○生き方を考えさせ、進路に向け主体的に取り組むことのできる生徒を育成する。</p> <p>○生徒の地域の一員としての自覚と自己有用感を高める。</p>	<p>コミュニティ・スクールの特性を生かし、進路関係の取組において地域の力を活用(職業講話、ようこそ先輩、マナー講座、福祉体験)し、生徒に生き方について考える機会とさせる。</p> <p>地域の方々との交流(CSプロジェクトの各活動、地域の活動など)を通し、地域の理解を図るとともに自己有用感を高め、自分が地域の一員であることを感じさせる。</p>	<p>伸ばす4つの力(こだるくスキル)の確認と意識づけ(年度始めと終わりにキャリアパスポートを利用して意識づけと振り返り)を行う。職場体験学習等体験的な活動を通して生き方と関連させる。</p> <p>生徒のボランティア活動や地域行事への参加を促進する。CSと連携し、ボランティアとして生徒が参加しやすい枠組みを実践する。生徒会役員とCS委員との交流会を実施する。</p>	4 <校内アンケート> 「あてはまる+ややあてはまる」(%)	4 <保護者・地域アンケート達成率>
				3 「進路学習を通して、自己の未来を考え、社会に貢献すること、どのような生き方をすべきかを深く考える能力や態度を育成した。」	3 (よくできている+だいたいできている)(%)
				2	2 「学校は、生徒の自己実現達成のため3年間を通して、進路指導を行っている。」
				1 30%未満	1 30%未満
防災教育	<p>■安心安全な教育環境整備</p> <p>○災害発生時に自他を守る知識・技能の習得を図る。</p> <p>○安全な学校生活と教育環境の整備を推進する。</p>	<p>・毎月、全教職員で校内を点検し、小平市教育委員会施設担当と連携を密に図ることで補修必要箇所の修繕を行う。</p> <p>・「自助」「共助」「公助」の観点から生徒の防災に関する知識・技能を高める。</p>	<p>・避難訓練を適切に実施する。</p> <p>・災害に対する意識を高めるため、防災教育を道徳、総合的な学習の時間を活用し適宜実施する。</p>	4 ○避難訓練時の避難完了時間(分)。	4 <保護者・地域アンケート達成率>
				3 5分未満→4 6分未満→3 7分未満→2	3 (よくできている+だいたいできている)(%)
				2 7分以上→1 とし、その平均。	2 「学校は、避難訓練や防災教育を通して、緊急時の意識を高め、対応に備えようとしている。」
				1	1 40%未満
働き方改革 業務改善	<p>■勤務時間管理と業務の効率化を目指した働き方の推進</p> <p>○育児休業取得推進する</p> <p>○業務の削減、短縮、工夫する。(運営に支障のない範囲)</p>	<p>・年休を取りやすい雰囲気醸成と組織的指導体制づくり。</p> <p>・育児休業の意義について周知する。</p> <p>・業務の効率化と労力対効果の低い業務の改善を図る。</p>	<p>・長時間勤務者への面接指導を実施する。</p> <p>・同僚性を高め助け合う雰囲気を醸成し年休等取りやすい体制づくりを行う。</p> <p>・定期考査で採点ソフトを使うなど、業務の電子化による効率化を図る。</p>	4 ○職員打ち合わせ等で管理職からの教職員の超過勤務時間削減に関する啓発・指導の回数。	4 月当たりの残業時間80時間以内達成の教員数の割合(%)
				3	3
				2	2
				1 2回	1 40%未満